

# 七浜

## 第167号

福島県公立学校  
退職校長会  
いわき支部  
発行責任者 一  
沢 宏 集  
編集委員  
七浜編集委員会

今号の主な内容	1面	2面	3面	4面	5面	6面	7面
新年を迎えて(支部長あいさつ)新春諷詠 事務局だより							
新春に思う 現職校長会役員との懇談会							
教育事務所長・市教育長との懇談会 想いを繋げる十七文字							
賀寿・賀詞伝達の様子 イベントクラブ始動 人材バンクへ登録を							
十日会報告 青少年健全育成							
支部の伝板「私の倶楽部日記」逝去を悼み冥福を祈ります							
受賞おめでとうございます 福祉功労賞を受賞して							
文芸							

## 新年を迎えて

### 如何に在すか

いわき支部長 沢 宏 一



令和7年の幕が開けました。退職校長会いわき支部の会員の皆様方に、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

さて、今年は、支部創立60周年の節目を迎えます。一年一年と支部の歴史が積み重なり、60周年を迎えることを、嬉しく、そして有難く思っております。本年4月に開催予定の総会では、「いわき支部総会並びにいわき支部創立60周年記念大会」として実施予定であり、現在内容等について事務局で検討を進めているところです。皆様方の多数の

ご参加をお願いいたします。さて、私は、退職校長会いわき支部の広報「七浜」の中で、大好きな記事があります。それは、「如何に在すか」という紙面です。この「如何に在すか」の紙面は、それぞれの号数ならではのテーマがあり、そのテーマに沿って、懐かしい先輩の方々が現在の様子等について書かれている記事です。お世話になった方々



## 新春諷詠

ダンサーの光る鎖骨や初稽古  
着ぶくれて風の足跡ふむ浜辺

初稽古

伊藤 弘子

とまるで直接お会いして、現在の状況などのお話を聞いていられるかのように、本当に懐かしさがいっぱいになる記事なのです。

この「如何に在すか」というように、相手を気にかける気持ちには、とても大切だと私は思っています。それは、あの東日本大震災の時に、神戸に住む友人が、いち早く「大丈夫か」と、福島のことを気にかけてくれた有難さが、今

でも忘れられないからです。最後にありますが、退職校長会いわき支部の広報「七浜」も今回167号になることに驚いています。七浜の作成に当たっては、会報委員長さんを中心として、紙面構成を考え、原稿依頼や校正作業等、何度も検討を重ねながら作成にあたって下さっていることに、この紙面をお借りして、感謝を申し上げます。

### 事務局だより

令和6年度は、「総会」とともに懇親会が開催され、「いわき十日会」は案内を会員全員お知らせしての開催となりました。退職校長会も以前の活動に戻りつつあります。

また、令和7年度の「第60回総会」は「いわき支部創立60周年記念大会」も兼ねております。お誘い合わせの上、ご参加をいただきますようよろしく申し上げます。

今後とも私たち事務局員は、会員の方々とともに会の運営を進めていきたいと思っております。今後ともご協力のほど、よろしく申し上げます。

#### 【年度末の予定】

- ① 会計監査 3月15日(土) 中央台公民館にて11時より
- ② 理事会 3月15日(土) 中央台公民館にて13時30分より
- ③ いわき支部総会創立60周年記念大会 4月19日(土) 椿山荘にて13時より

(村田 哲幹 事務局長)

# 謹賀新年

2025. 1. 1

顧問／阿部 郁夫  
高木 祐亨  
渡部 正衛  
山内 裕三  
賀澤 雅二  
鈴木 健宏  
増井 一子  
沢田 幸啓  
武飯 塚本  
根小 良政  
小峰 美保  
斎藤 昭正  
稲沼 正雄

支部長／  
副支部長／  
監事

## 新春に思う

今年、巳年。巳年生まれの会員に、新しい年の思いなどを綴っていた。

アンチエイジング考

磯上 正巳

12年間、人権擁護や非行防止のボランティア活動を続けてきた。出会った多様な人たちとのつながりや知らなかった世界での新たな社会貢献は生活の張り合いや充実した達成感となり、幸せな余生になっっている。人権尊重の社会の実現を切望する。高段者の道や上級者ゴルフ（笑）を目指す大好きな囲碁やゴルフは、同好の士との交流が心の若さを保つ健康パワーの源だと感じている。更に、精進を重ね強く、上手くなりたい。

アーモ イタリア

桐生由久子

退職後、イタリア語との出会いがありました。最初は音楽用語の「フェルマータ」。全てのバス停に書いてありました。停止バス停ということ、後日納得。その後様々な単語に遭遇し、いつのまにか好奇心に火がつかしました。イタリアでは、男性が女性に、愛や幸福の象徴であるミモザを贈る習慣があります。昨年私が庭に植えたミモザの木。春に黄色い無数の花が咲くのを夢見ています。日本は勿論、イタリアも大好き！

### 「ドンドコドンドコドコドン」

吉田 聡

ドンは右手でコは左手で打つ。一時代前の和太鼓は口伝方式。

師匠が「ドドンコドン」と言えば、弟子は右手でドドンと打ち、続いて左手でコを打ち、また右手に戻ってドンドンと打つ。そこに刻むリズムの早さも時の師匠からの口伝方式。リズムを何度も口ずさみ、新春に向け吾が膝打ちで覚える。白色紙が非常に貴重な時代、師匠からの口伝による太鼓奏。繰り返す大切さも人との繋がりがりも学べた口伝の時代が懐かしい。

### 現職校長会役員との懇談会

#### 懇談会

9月24日に平第一小学校において開催された。

参加者は、校長会から、渡邊連協会長始め小・中・高・特別支援各校から8名、支部

からは、沢支部長始め5名。渡邊連協会長、沢支部長の挨拶の後、懇談に入り、各校現場の状況や課題について話していただいた。

#### ●小学校から

①カリキュラムオーバーロードで教師・児童共に忙しく、働き方改革が進んでいない。

②運動会の平日開催、学習発表会の廃止が進みつつある。

③校長会のスローガンに「改革と発信」を掲げ活動。

#### ●中学校から

①中体連は、生徒数減少により合同チーム、クラブチームが多くなってきた。令和9年度を目標に、土・日のみ部活動全競技で、地域移行を図っていく。

②高校の再編、バス路線の減少等により、高校の選択肢が狭まっている。

#### ●小・中学校共通の課題

①管理職志願者の減少、病休者の増加、新採用教員の増加、欠員補充者等講師の不足、等が課題である。

②外国籍の児童生徒の増加、特別な支援を要する児童生徒の増加、不登校児童生徒の増加等、多様化が進んでいる。

#### ●高等学校から

①カリキュラムの抜本的な見直しが進んでいる。

②磐城・桜が丘・湯本各校で、「医学」「教育」「保健・医療」コースを設け、地域と連携し職業に対する意識を高める取り組みをしている。

#### ●特別支援学校から

①知的障害児は増加。肢体不自由児と聴覚障害児は減少し、地域の小・中学校へ入学する傾向にある。

②教室不足、教員不足が課題である。

③その他、退職校長会の人材バンクについては、陸上競技大会の協力、不登校対策など大変助かっているとの話があった。

最後に、支部長が懇談の中で出た諸課題について、関係機関にも声を届けていきたいと挨拶し、懇談を終了した。

(飯塚啓文副支部長)

### 教育事務所長との懇談会

教育事務所との懇談会に臨んで

10月10日、いわき合同庁舎4階中会議室でいわき教育事務所長との教育懇談会が開催された。

いわき教育事務所からは大竹孝喜所長、田中淳一次長、

本会からは沢支部長他3名が参加した。

沢支部長と大竹所長の挨拶の後、田中次長より「令和6年度 学びの変革推進プラン」について説明があった。

#### 課題として

○復興から14年、安心して学べる環境作り

○特別支援学級の生徒数増加への対応

○教員採用の人数不足

○不祥事

○働き方改革等があげられた。

働き方改革について協議し、現場の声として、働き方改革は難しい。子どもと向き合う時間の確保が最優先だが、行事の削減は子どもの成長にいかがなものか。行事の

バランスを考え、教職員との合意を得て進める必要がある。

不登校者が増加しているが外国籍の子の例が目立つ。退職校長会で立ち上げた人材バンクからの派遣により、不登校の改善に貢献した例がある。人材バンクの登録者に情報を提供したい。

退職校長会の情報は学校現場は持っていない。連携して情報を提供していきたいと思う。退職校長会は子どもたちと現場の先生方を含む学校の応援団として頑張っていきたい。

(武田幸子副支部長)



いわき市教育委員会との教育懇談会

10月23日、市教委からは服部樹理教育長始め、8名の方々が、本会からは沢支部長以下3名が参加し、教育懇談会が行われました。

懇談会では、次のことについて話し合われました。

部活動地域移行について  
地域部活動移行とは、部活動を学校単位での活動から、地域との連携・地域での活動へと移行するものです。少子化が進む中、将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため、推進している施策でもあります。そのような中、いわき市の取り組みを紹介していただきました。

### 市教育長との教育懇談会

①部活の指導者育成や剣道・合唱のモデル事業実施等に取り組んでいる。令和8年度を目標に休日の完全地域移行を目指している。



(村田 哲幹 専務)

②学校からの要請で指導の仕事などについて指導主事等を派遣し、指導・支援に取り組んでいる。

化解消という課題もある。

③部活動が学校教育活動から離れることから「授業で生

きる教師」の意識を今後とも啓発に努めていきたい。

④教職員の人材不足について

①年度当初の教職員の欠員はなかったが、加配教員の配置に苦労している。

②磐城桜が丘高校の教育コースの取り組みに期待している。

教職員研修や教育支援について

①教師の指導力向上に向けて様々な講座を取り入れ、研修の充実に取り組んでいる。

②学校からの要請で指導の仕事などについて指導主事等を派遣し、指導・支援に取り組んでいる。

### 想いを繋げる十七文字

門馬 栄

毎年ふくしま絆ふれあい支援事業として「ふくしまを十七文字で奏でよう」を、福島県教育委員会が主催で実施しております。応募形態は、「子どもと大人」「子どもと子ども」のペアによる応募で、子どもと親・保護者、子どもと祖父母、地域で様々な活動を行っている子どもとその指導者、同級生など様々ペアで応募していただいています。応募は、保育園幼稚園から小中高校、特別支援学校など幅広く呼びかけております。応募期間は6月中旬から9月初旬となっております。令和5年度は、いわき管内で五千六百首余りの応募があり、多数の優れた作品が生まれております。

県下各地区で第一選考がおこなわれますが、退職校長会いわき支部では、その選考委員を依頼されております。今年度も、方部委員の先生方に協力していただき、無事に終えることができました。今後とも、子どもたちの「ふくしまの想いを繋げる」べく、ご協力よろしく申し上げます。

おめでとうござい  
長寿のお祝い



賀寿

平東

阿部 郁夫氏

昭和4年12月5日生

12月5日のお誕生日に阿部郁夫先生のご自宅を方部委員の団野が訪問しました。伝達には近所在住の甥御様に同席頂き、95歳の賀寿の表彰状と記念品を贈呈いたしました。

90歳まで車の運転をしていたが返納し、通院等で甥御さんに世話になっていていること。デイケアには行かず、家において食事作りや後片付けも自分でやっていること。病気にいかかったが、ブルーベリーを好んで食し、今は体調もよいなどの近況をお聞きしました。回想の中に意図的に私の若い頃や知人を話題にして頂く等その記憶力と思いやりのある言葉に感銘を受け、「次は百歳の賀寿でお会いできるかな」と笑顔を見せて頂きました。

最後に益々のご長寿をご祈

念し訪問を終えました。

(平東方部委員 団野勝一)

賀詞

勿来

大平 健次氏

昭和11年6月3日生

6月3日、先生の誕生日に訪問させていただきました。笑顔に迎えられ、少し緊張しながら賀詞を読み上げ、記念品と共にお渡ししました。

中学校の部活動でサッカーの指導に夢中になっていた頃のお話をお聞きし、当時の先生の情熱がそのまま伝わってくるようでした。退職後は人権擁護委員として誠実に人権教育に関わり、仲間との絆を深め、震災後の困難を乗り越えながら長年ご活躍されてきたことなどを感慨深げに話してくださいました。

現在は足の痛みに少々悩まされながらも晴耕雨読の生活を楽しみ、心穏やかに過ごすことを大切にされていらっ

先生の益々のご健勝を心から祈念申し上げます。

(勿来方部委員 高澤昭子)

賀詞

平東

白土 吉則氏

昭和11年10月8日生

10月8日のお誕生日に白土吉則先生のご自宅を平東方部委員の団野が訪問しました。伝達の際に奥様に同席頂き、米寿の賀詞の表彰状と記念品を贈呈いたしました。

車の免許を返納し不便を感じる日々を送り、何もせず長生きしていると謙遜されましたが、高校で古典を教えていた縁もあり、生涯学習プラザで万葉集の講義を行っているとの近況をお聞きしました。

最近の学校統廃合の話題を受け、旧平三小の近くに家があつたご自身の小学生時代の話となり、その当時の離任式は、学校から本町通りまで人が並んでいたとの思い出話から少子化に伴う時代の大きな変化を感じました。

最後に益々のご健康をご祈念し訪問を終えました。

(平東方部委員 団野勝一)

楽しく充実した時間作りませんか  
イベントクラブ試行

会員減少や高齢化に伴い、クラブ活動の元気がなくなってきた。そんな状況を少しでも打破しようと、新しい形のクラブ活動を模索し、動き出した。

先日、会員の皆様に「イベントクラブ」の試行についてのプリントが届いたと思うが、どんな意見をお持ちになったのだろうか。ぜひ声を届けてほしい。

1月1日現在で13人が登録済みとのこと。試行の弾みとなる。登録は、随時受け付けているので、まずは登録を。では登録方法をもう1度

①携帯電話で、クラブ担当者 門馬栄先生へ。

②クラブ担当者から、LINE (ライン) グループ加入の招待通知が来る。

③承諾すれば登録完了。イベントの案内は、ラインで送付される。

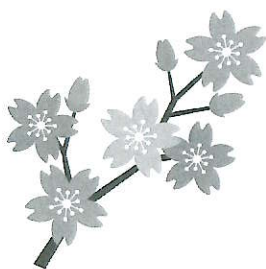
待っています、あなたの力  
人材バンクに登録を

教員の不足が、たびたびニュースになる。そのたびに、胸が痛む。いわきでも足りているとは言えないようだ。

そこで少しでも退職校長会も、役に立てないかと考え、立ちあげたのが人材バンク。登録いただいた方々には感謝。それでも、まだまだ不足。

磨いたものをもう一度、子どもたちのために生かしてみませんか。

また人材バンクについて、ご意見等ありましたら事務局まで。



# 笑顔が広がった会場 第68回 十日会 報告



列島を大雪被害のニュースが駆け巡る中、穏やかな天候に恵まれた1月11日、椿山荘において十日会が開催された。今年、退職校長会は全会員に案内をだしたので56名が参加。特別会員の方も元氣な姿を見せてくださった。小学校長会は、大内克之会長以下13名。中学校長会は、渡邊貴彦会長以下12名の役員が参加した。

村田哲事務局長の司会で会が始まった。

大内小学校長会長の開会のことばに続き、沢宏一支部長



が主催者あいさつを行った。沢支部長は、いわきの子どものたちの活躍や各学校での成果に触れた後、

「現職の方は、一人でも多くの退職者と話してほしい。退職者は現職の方に話しかけてほしい。」と強調された。

鈴木雅之顧問の発声で乾杯し、祝宴に入った。たちまち談笑の輪が広がっていった。閉会の時間が来ても、その輪はなかなかほぐれなかった。話したいこと・伝えたいことが多いのであろうと推測できる。来年の参加者が、もっと



増え、この楽しいひとときを共有していただけたらなと思えた時間だった。

## 青少年健全育成協議会報告

いわき十日会青少年健全育成協議会会長

笹川 育 正

昨年7月17日に平三中で実施いたしました。現職校長会等の働き方改革に伴い、代表役員により次の二つについて協議を進めました。

### 協議1の報告

(市内小・中学校の生徒指導上の課題について)

- 特別に支援を要する児童生徒が増えている。個に応じた指導の難しさがある。
- 不登校、不登校傾向の児童生徒が増えている。別室指導も実施するが、マンパワー不足である。
- SNSで他校生徒や高校生、さらに大人と繋がる様子がある。画像の送信からは問題も発生している。
- スマホのゲームをネットを通じて行っている。相手がどんな人物か分からない場合も想像される。
- 校則については、着こなし

や身だしなみなどについて生徒も入れて話し合う学校が増えている。

### 協議2の報告

(今後の協議会の持ち方について)

- 「教員の働き方改革」もあり、会合の精選や運営の在り方、内容の見直しなどが必要である。
- 生徒指導上の課題解決は難しいが、今後も協議会を通して情報を共有することは必要である。

○現職校長は、年休により本会に参加している。学校を開けることを避けたい。これらの意見から、会合の必要性やスリム化を考慮し、毎年9月から10月に実施している「現職校長会との教育懇談会」の開催時に、本会を兼ねて実施することといたしました。

方部の伝言板

62

# 「石炭を生む山」から

佐藤 哲哉

—— 内郷方部 ——

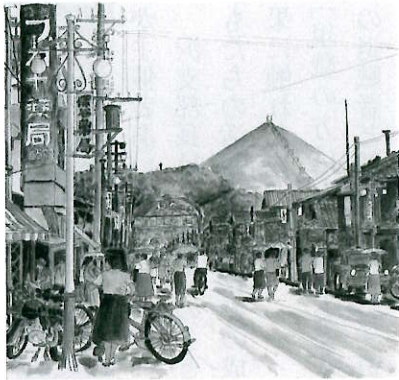
常磐炭田の盛衰に興味があり、退職後、子ども達の学習向けにと、白黒で残された写真等を元に彩色画で当時を再現しようとしてきました。

関連資料を探す中で出会ったのが表題の書籍です。古書店で注文し読み進めると、あの記述に目を引かれました。

「隣村では、昔は温泉が湧いて温泉宿が栄えたのだけれど、その温泉がだんだんと湧かなくなり、こちらの村の炭礦に温泉が湧き出したこと」

「村のお寺の歴史を調べてみると、600年ほど昔にはたいそう立派なお寺であったらしく、国宝になっていること」「会社の水泳プールのある道を通り抜けボタ山の上からじっと瞳を凝らすと、岬の突鼻に有名な灯台が見えること」

そう、偶然ですがそれは昭和10年代の内郷村について記された物語であったのです。現在、内郷地区の街として



の機能は、炭鉱が栄えた頃とは大きく違ってきます。街を歩くと、当時が偲ばれる建造物等にも出会うのですが、それらは今を生きる人々の生活や子ども達とは関係なく存在しているようにも見え、残念ながら荒廃も進んでいます。炭鉱時代を語ることが出来る人も少なくなってきました。「街の歴史を子ども等の心に残していきたいですね。」

方部の先生方で集まる機会には少ないのですが、そんなことも話題にしてみたいと勝手に考えている今日この頃です。

# 私の倶楽部日記

ターゲットバードゴルフクラブ

江尻 元 茂

掲載の写真は、令和4年秋特設コースのある東屋での談笑風景の一枚である。



員の高齢化や体調などを考慮し、年度末を以て廃部とする予定です。

ご逝去を悼み心からご冥福を祈ります

故小野 哲司先生

誕生 昭和9年4月22日  
遺族 小野 修司

逝去 令和6年9月3日

故上遠野 清志先生

誕生 昭和9年1月9日  
遺族 上遠野 清行

逝去 令和6年11月17日

故高木 仁先生

誕生 昭和6年3月30日  
遺族 高木 悟

逝去 令和6年12月9日

故廣瀬 敬彦先生

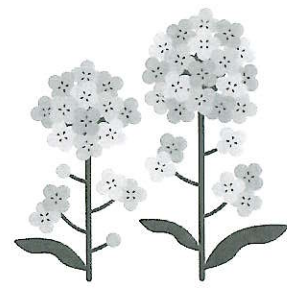
誕生 昭和36年2月1日  
遺族 廣瀬 亮

逝去 令和6年12月11日

故三戸 邦一先生

誕生 昭和14年6月8日  
遺族 嶋森 裕二

逝去 令和6年12月13日



# 受賞おめでとうございます

古くから、日本の秋を飾る花と称される菊花。その栽培に長年精魂傾けてこられた方がいる。そして毎年のように受賞されている。菊に傾ける思いを綴っていただいた。

## 健康の源・菊づくり

島田 征男

12月、腐葉土を4種類のふり器で葉の大きさ大・中・小に振り分ける。1月、8種類の素材を混ぜ菊用土を作る。3本立て盆養・ダルマ菊・ジャンボ福助・福助・スプレー・ドーム・大懸崖菊等種類によって菊用土をそれぞれ作り3週間ごとに切り返し熟成させる。4月より7月まで菊の種類によりさし芽を行ってゆく。約2週間後発根したものを小ポット鉢へ入れ10日



後には5号鉢へ移植する。温度管理が難しく夏場は毎年苦労する。4月から菊の種類により菊鉢を変え定植する。10月末の展示会の審査まで水やり・施肥・消毒・増土・鉢回し等を行う。9月10日前後の芯蕾の手入れで菊花の評価がほぼきまる。今年の出品作品が数多く受賞できたことは大きな喜びであるが、展示会場で注意していることは、賞を逃した仲間達の心情を思いやり、気くばりをもって接していることである。過去何年間出品しても受賞無しが続きそ

の都度先輩方の指導助言を受け今があるように思う。失敗作の時はその原因はなにか。水やり・消毒・気温・湿度等の自然環境なのか検討をし次年度に生かす。その記録が貴重な情報源になる。月々の地味な手入れに植物は正直に答えをだしてくれる。家内と分担して、行う家庭調理も調味料の加減、加熱の温度差、水の量の大小等菊づくりに相通じるものがある。どちらも、

ていいいに心を込めて作れば味のよい料理になり、バランスのとれた菊花になる。今年も失敗しても諦めず前向きに挑戦していきたい。剪定・除草・調理・菊づくり・心穏やかな仲間達との対話などチョイ活が健康の源になっている。



# 福祉功労賞を受賞して

西山 和子

初任時代数多いご指導を受けた中に、「退職後は地域に貢献する」という教えがありました。

長い間、機会があればと思いついていました。

そんな時、地域の「民生委員・児童委員」の依頼がありました。

減少する子ども達・増加する高齢者と地域も大きく変わって行く中で「貢献」の言葉を思い出し、委員を引き受けることにしました。

地区のスローガン「皆で築こう、住み良い赤沼」に添っ

て、高齢者・一人暮らしの家庭訪問を行い会話、日常生活の様子、安全確認の把握、子ども達への登下校の見守り、声かけ等を行っています。その中で地域の方々から多くの事を学び、応援も頂きました。

この度、福祉功労の表彰を賜りましたが、多くの地域の方々にはささえられて頂いた賞であると感じの気持ちです。微力ですが今後出来る事と思っています。



# 文芸欄

## 随想

### 一隅を照らす

山口 洋子

芸名「おばあさん」を名乗るおばあさんは、みんなに笑いをと、今日も養成所に通う。その心意気に感じ入り、画面に応援の拍手を送る。

ボランティアといえば、国内外で展開されている救助・支援活動がある。その献身的な姿には自然と頭が下がる。

ボランティアの語源は古く、意志という意味を持つ。自発無料、奉仕活動へ連なり、今もその精神は続いている。活動形態は多様であり、習

得した知識や技能を發揮して、一隅を照らしている。例えば、子ども食堂で食事を提供する、子どもに勉強を教える、お年寄りに歌や踊りを発表する、お年寄りに水泳を指導する、悩みや困り事の相談に乗る、買い物に付き添う、更には地域や各種団体の運営に関わる等枚挙に暇がない。

子どもやお年寄りの笑顔、目の輝き、心なごむ表情には、ボランティアの差し伸べる温かい手に、人とつながる喜びが浮かんでいる。

この、人とのつながりこそ、生きる希望や勇気の原動力になる。社会の片隅でさりげなく、生活の一端のようにボランティアする皆さんに深い尊敬の念を抱く。

得した知識や技能を發揮して、一隅を照らしている。例えば、子ども食堂で食事を提供する、子どもに勉強を教える、お年寄りに歌や踊りを発表する、お年寄りに水泳を指導する、悩みや困り事の相談に乗る、買い物に付き添う、更には地域や各種団体の運営に関わる等枚挙に暇がない。

子どもやお年寄りの笑顔、目の輝き、心なごむ表情には、ボランティアの差し伸べる温かい手に、人とつながる喜びが浮かんでいる。

# 絵画

第76回 南面院展 入賞作品

「切り絵・エネルギー」 高羽 博樹



退職後の10年間の木工を終了し、70歳から切り絵を始めました。この作品は、植田にある工場の夕方の風景を切り取ったもので、東京都美術館の南面院展で茨城県議会議長賞を頂いたものです。まだ始めて4年目ですが、ランプ画会にも入れて頂き、楽しく勉強させて頂いています。

## 短歌

矢内 孫次

兄逝きて「一目だけでも」会いたくも身体動かず我も卒寿  
天空に輝く星の上棟の夜二人で眠る「藁ボッチ」作る

## 俳句

無垢の酒

(早春の頃の限定酒)

高橋 彦彦

父母の知らぬ世を生く  
無垢の酒

豆打ちの身に抱く鬼の何々ぞ

冬落葉の庭

孫と 小幡 紘夫

庭落葉三つ四つの袋かな

サッカーのボールけりこむ

冬木の芽

## 編集後記

穏やかな年明けに、安堵したのも東の間、大雪の被害報道が続き、テレビの映像に、驚くことも度々だった。四季が無くなるのではと報道もある。メディアからは、様々な対策も提案されてくる。原因を作ったのは人間なのだから手をこまねていることはできない。何ができるか。そんな思いが空回りばかりしている昨今でもある。

◇支部長さんの原稿で「如何に在るか」について、述べていた。私も好きなコーナーの一つである。現在、編集の都合で休載しているが、そのうち復活する予定である。

◇今号も、会員の皆様のご協力で、予定通り発行することができた。心より感謝である。

## 書



青い山

橋谷田 素石

種田山頭火の俳句

「分け入っても分け入っても青い山」

からのイメージで書きました。

## 絵本

引地 晴子

書の道を更に励まむ平安の光源氏に心ひかれつ

六歳の孫読みくるる絵本あり絵の人物になりきりてをり

